鏡石まちの駅

町コミセン改修

特産品販売・カフェ　コーナーなど設置

JR鏡石駅・町コミュニティセンターの改修事業がスタートしました。この事業は、町の観光・交流拠点として、賑わい創出を目的に今年度の重点事業として計画したものです。これまで施設の改修計画をはじめ設置後の運営計画を「鏡石まちの駅運営準備会」を設置し検討してきています。今月号では、JR鏡石駅舎の機能を併せ持つ町コミセン改修事業の経過と計画の概要についてお知らせし、ご理解とご協力をお願いします。

来年4月のオープン目指す

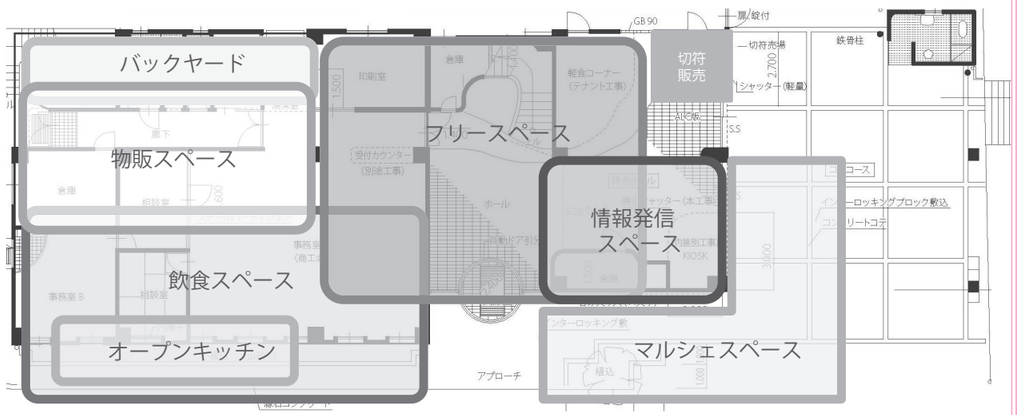
町コミュニティセンターは、昭和61年5月、JR鏡石駅の駅舎とコミュニティセンター機能を兼ね、町の中心地区の賑わい創出を目的にオープンしました。1階には、町商工会事務室とJR乗車券販売窓口や売店、2階には、大小会議室を設け、当時では画期的な建物でした。

特に、軽食コーナーは、町内の飲食店が出店、一時賑わいを見せ、JR駅併設のコミュニティセンターとして話題を提供しました。

今回の改修計画では、1階部分をリニューアルし、駅利用の待合機能をはじめ、町の特産品の販売や軽食・飲み物を提供するカフェ、場所を貸し出すチャレンジショップコーナーなどを設置し、町の観光・交流拠点として整備する計画です。

平成30年4月のオープンを目指し、基本計画には昨年開いたワークショップの意見を反映するほか、現在準備会で検討を重ねています。

鏡石「まちの駅」基本計画図（平面図）



基本コンセプトは「交流」・「活力」・「発信」

町コミセン改修事業は、第5次総合計画をはじめ、まち・ひと・しごと創生総合戦略、町観光振興アクションプランに位置づけられた「鏡石まちの駅」の設置について具現化したもので、基本コンセプトを「**交流**」・「**活力**」・「**発信**」の3つとして、それぞれ機能を果たす計画です。

具体的には、「**交流**」には、休憩所・軽食カフェ・小会議スペースを、「**活力**」には、特産品直売、6次化商品開発・販売、チャレンジショップなどを、「**交流**」には、町観光協会ホームページ、観光情報の掲示、SNS掲載情報の収集発信などの機能を持たせて町の賑わいを創出できるよう配置する計画です。

4月にまちの駅運営準備会設置

今回のまちの駅設置事業には、多くの町民のみなさんの意見を反映させるため、昨年は3回のワークショップを開催、今年4月には、「鏡石まちの駅運営準備会」を設置し検討を重ねています。

この準備会は、関係団体の代表と公募委員を含めた19名の委員で構成され、会長に長田守弘さん（町商工会）、副会長には、清野明さん（町魅力あるまちづくり実行委員会）と今泉清子さん（町商工会女性部）が選任され、先進事例研修や施設配置についての意見交換を行っています。最も重要となるオープン後の運営や管理方法については、別に「運営委員会」を組織して、さらに詳細な事項を協議する計画です。

地方創生拠点整備交付金など活用

改修事業の総事業費は、1億6，279万円で、国の地方創生拠点整備交付金7，200万円と県の地域創生総合支援事業補助金977万円を充て、1階の事務所、駅待合室、売店の約290㎡を改修、観光案内動画が提供できる設備を導入する計画です。

町の核づくりに期待

鏡石町は、JR鏡石駅がほぼ中央に位置し、中心市街地も駅を中心に形成されており、駅は町の顔として整備・活用されてきました。

近年のモータリゼーションの進展とともに鉄道による乗降者数は減少しているものの、鏡石駅の乗降者数は、1日約800人を超え、朝夕の通勤通学時のホームは特に混雑しています。

また、国の観光政策により、全国の市町村が観光交流事業を重点施策として取り組み、地域振興の重要な手段となっています。

建築以来31年が経過したこの時期にコミセンのリニューアルによる機能の強化により、来訪者と町民が集う施設となり、町の中心市街地の位置づけと人の流れが変わり、地域活性化につながることが期待されます。

「鏡石まちの駅」愛称募集中！

開設にあたり、より多くの皆さんに親しんでいただけるよう愛称を募集しています。

○応募締切　7月21日(金)

○応募要領　官製はがき又はメールに必要事項（住所・氏名・電話番号・愛称）を記入し応募。

○応募先　産業課まちの駅愛称募集係
〒969-0492　鏡石町不時沼345
sangyo@town.kagamiishi.lg.jp

町の魅力発信の拠点に

町長　遠藤栄作

鏡石町の場合、駅は町のほぼ中央に位置し、これからのまちづくりの要となる施設だと思っています。

町の魅力を町内外に発信する拠点となるよう活用し、人・物・話題の集まる施設として、皆さんで育てていただければと願っています。

開駅106年を迎えた鏡石駅

長年親しまれた旧駅舎

明治44年6月に開駅された「鏡石駅」は、今年で106年を迎えた我が町の顔ともいうべき施設です。

駅は、これまで多くの出会いや別れを見守り、時代とともに変遷してきました。

そして、昭和61年5月にコミュニティセンターに併設された駅舎として生まれ変わり、今回は、部分改修により、さらに親しまれる施設として、人の集まる機能を兼ね備えた施設となる予定です。